

日本横断航行記

——めざせ日本海——

吉野 福男

過去十数年間、日本において単発的な河川航行および激流下りを主として来た我々は、日本において最激流と言われている黒部川を1970年に成功、また、1973年にはアメリカ合衆国コロラド河450Kmを航行するなど、激流航行に関して世界的レベルまで向上した。

しかしながら、今後河川探検を続けるにあたって、世界の最激流を航行すると共に、河川・ボートに関するフィールドを幅広く捕えた活動をやっていかなければならぬだろう。日本横断航行は、この思考を実践に移す第一歩であった。

合宿にあたって我々は、まず富士川から信濃川の地図を見ながら、過去の経験および資料を参考に、ルート・方法・手段を厳密に検討し、それに必要な装備・食糧などを再検討した。一番問題になった点は、富士川をファルトボートによって渡ることにあった。ファルトボートに関しては、あまり経験がなく、川を渡ることも初めてのことであった。次に、甲武信岳越えである。これも沢に対する経験者も少なく、一人当たり35～40kgでかさのあるファルトボートなどを背負っての沢登りであったから。

上記の事に関して我々は、一年生に対する河川航行指導および、ファルトボート技術修得、川を渡るデータ収集、あるいは、8月中旬に富士川・信濃川・甲武信岳偵察を行ない、装備・食糧に関しては軽量化し、コンパクト化など色々な問題を解決し、7月21日やっと出発地点富士川河口に

全員集結した。

7月上旬からの梅雨により、富士川の状況は最悪であり、果してボートで渡るができるかどうか、はやくも不安が全員の頭をかすめた。富士川河口を出発してからというもの、我々は手ごわい富士川を相手に、2台のファルトボートを漕いだり、引っぱたり、かついだりと、たゞ上流に向かって一歩でも進むことのみ考え、悪戦苦闘の毎日が続いた。

7月30日、9日間の日数を費して富士川の上流山梨市に到着し、ファルトボートを上げた時はほっとひと安心したものである。が、それとともに甲武信岳・信濃川のことが一段と不安になってきた。

7月31日から8月4日までが、甲武信岳越えに費やされた。偵察により一応の事は把握していたが、実際に35kgの荷物を背負っての沢登りは、多くの危険をはらんでいた。十分余裕を持って一歩一歩慎重に登って行ったが、肉体的・精神的にかなりハードな甲武信岳越えであった。

8月5日、信濃川源流居倉よりゴムボートによる川下りであるが、富士川とは反対にまったく水量がなく、8月9日までは、ゴムボートに乗って下ることより、ゴムボートを引っぱったり押したりして、川の中を歩いていった。この頃から全員今まで蓄積された疲れが出始めた。信濃川に入ったら川下りを楽しめると思っていた考えが、あまりにもあまかった。発電用のダムのために水が取ら

れ、快速な川下りをした距離は100km前後であつた。

このような困難に出合いながら、どうにか8月19日、信濃川河口日本海に出ることができた。一切の交通機関を使用せず、ボート・徒歩のみで

全行程492kmにも及ぶ日本横断を、31日間も
の日数を費やして行なった成果は、今後の活動の
基礎となって、大きく発展するであろう。

